

# カーボ・ベルデ共和国漁業振興計画

## 基本設計調査報告書

昭和55年3月

国際協力事業団

林水産

80—29



JICA LIBRARY



1064020193

國際協力事業団	
輸入 月別	84.87284
登録No.	14298
	(504)
	1896
	FPT

## 序 文

カーボ・ベルデ共和国政府は、自国周辺海域における漁業資源の開発を進めており、この開発の一環として、零細漁業振興計画を策定し、このたび同計画推進のために必要な漁業用資機材の供与についての協力を要請してきた。

この要請に基づき、国際協力事業団は昭和54年11月24日から12月9日までの16日間にわたり水産庁国際課古川有恆氏を団長とする基本設計調査団を現地に派遣した。

現地においては、カーボ・ベルデ共和国の全面的な協力を得て、調査活動はきわめて円滑に実施され、ここに報告書を取りまとめるにいたった次第である。

本報告書が関係各位の有益な資料として活用され、本計画の推進に寄与するとともに、この協力を通じ、カーボ・ベルデ共和国とわが国との友好親善に役立つことを願うものである。

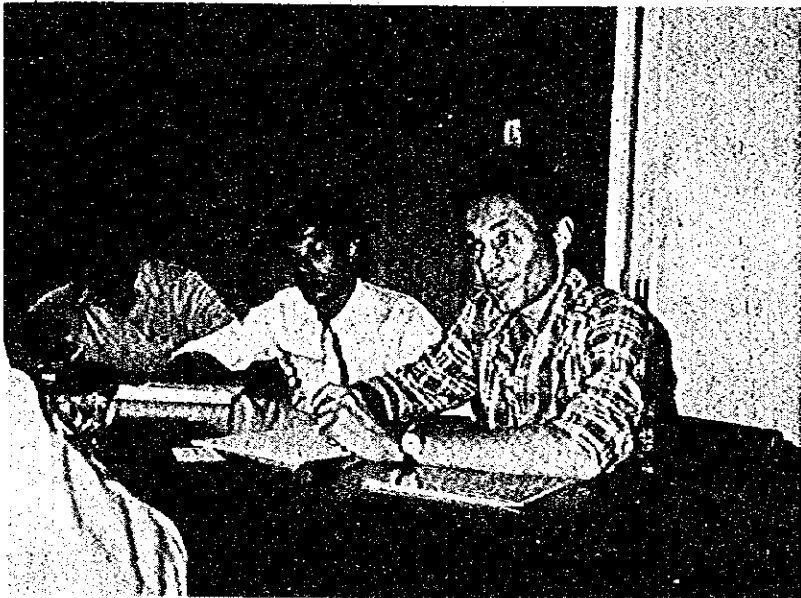
終りに、本件調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心から感謝の意を表すものである。

昭和55年3月

国際協力事業団  
総裁 有田圭輔



# 調査団の会談風景



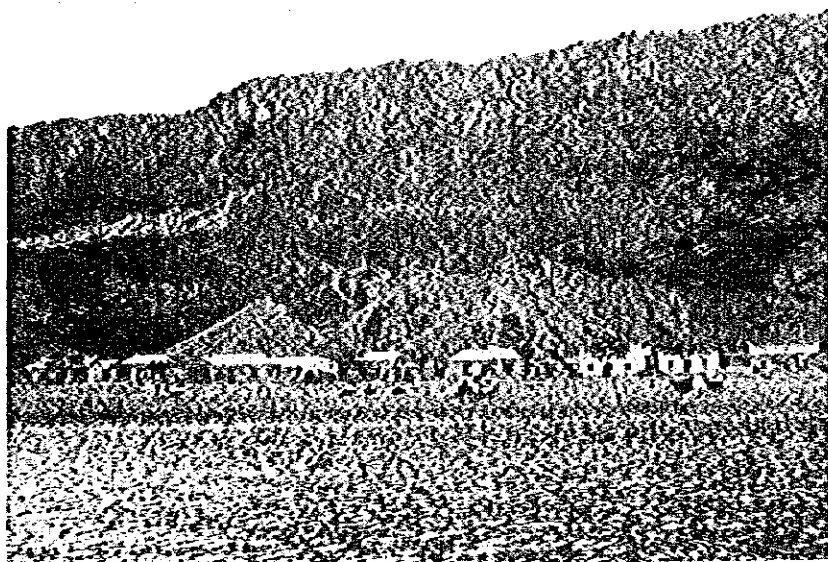
協力企画庁会議室  
 向って右から  
 協力企画庁協力局長 ADAO ROCHE  
 同 協力課長 JOSELUIS MONTEIRO  
 漁業局 調整官 ELISIO SILVA

会談中の光景  
 向って右側 カーボベルデ政府代表  
 向って左側 日本JICA調査団  
 経済調整省漁業局会議室



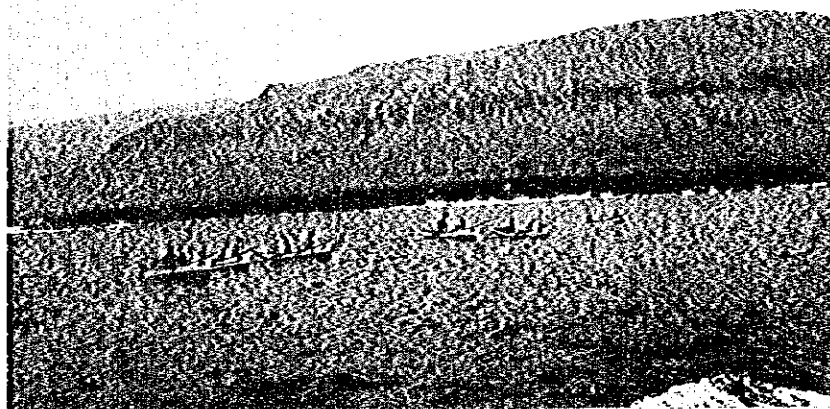
漁業局長  
 HUMBERTO BETTENCOURT SANTOS  
 漁業調整官  
 ELISIO SILVA  
 漁業省会議室

# SAN TIAGO島、沿岸零細漁船のまぐる1本釣風景



サンチャゴ島クラファル漁村

集団採業中の沿岸零細漁船

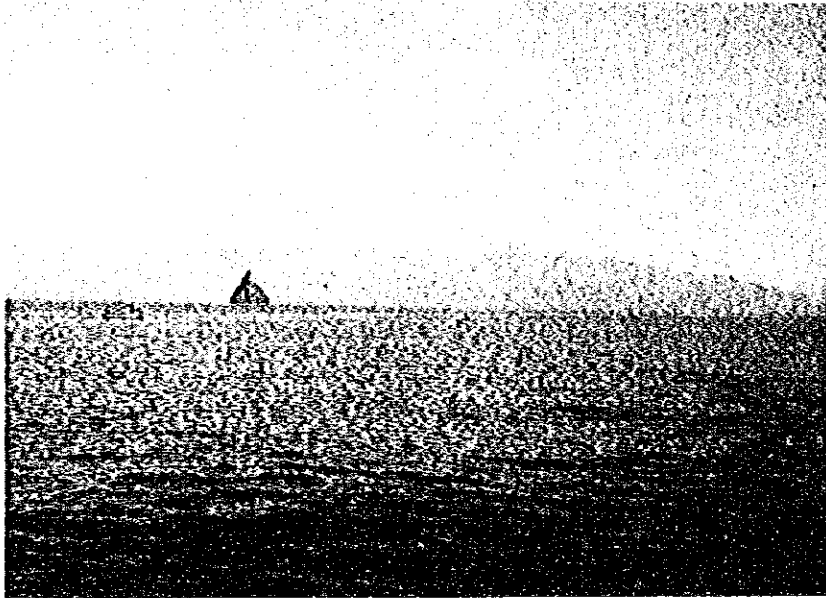


採業中の沿岸零細漁船





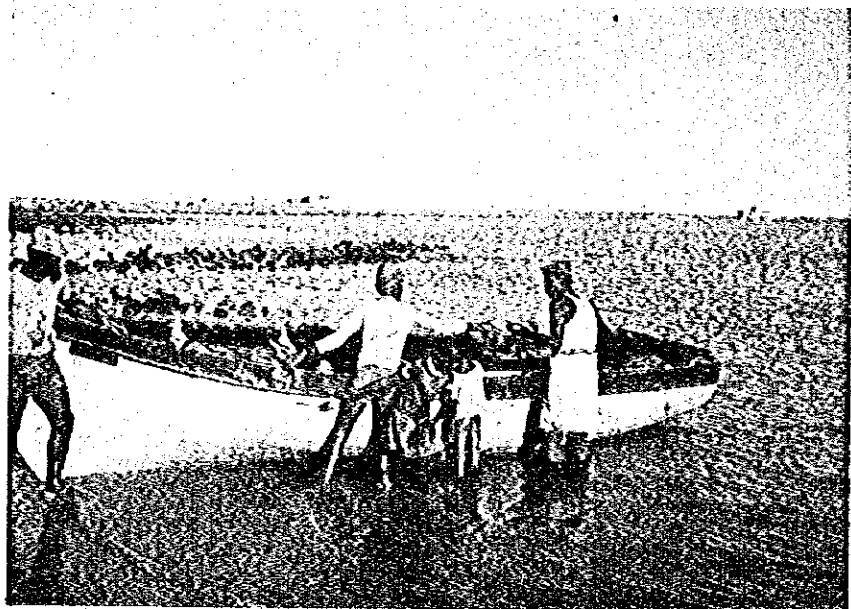
ミンデロ ポートグランデを出港する現地漁船



サンチャゴ島 リンカン村の沿岸漁船に積まれた小型まき網



# SAN VICENTE島バイヤダスガッタス漁村における帰港風景



陸揚げされたまぐろはオカミサンの頭に乗ってベスカードへ



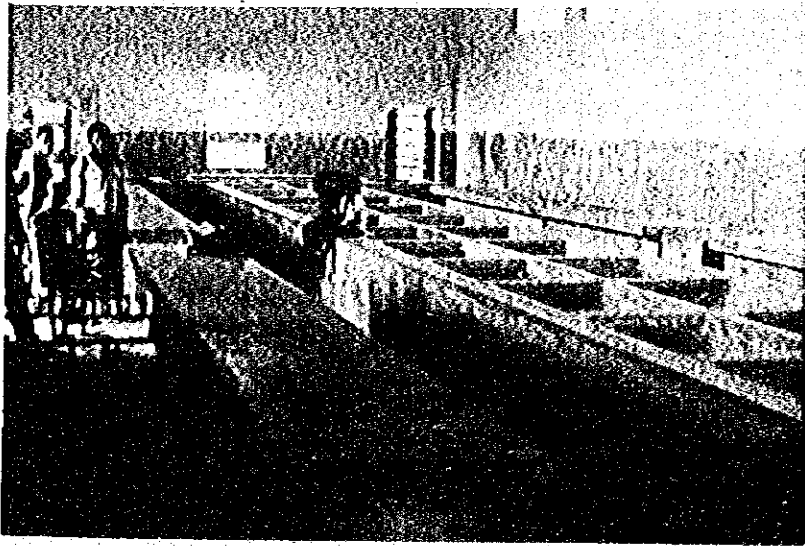
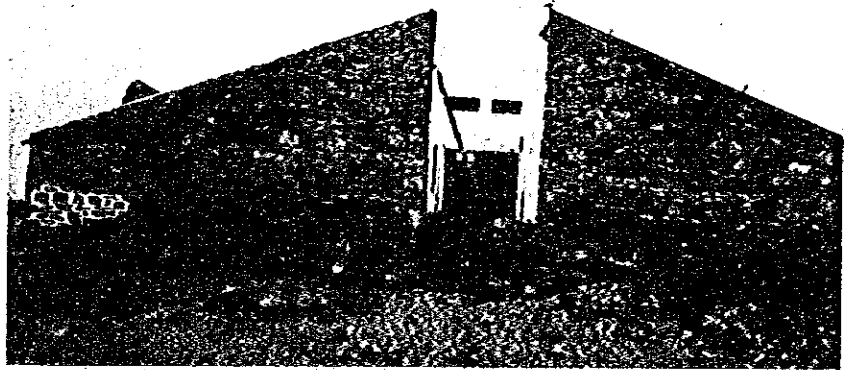
まぐろ（黄肌鮪）陸揚中の光景

# SAN TIAGO 島 RINCÃO 村 塩漬加工所



サンチャゴ島リンカン村の石浜

サンチャゴ島リンカン村に建設中  
の塩漬塩干加工場



塩漬工場

## 漁民の編網、修理作業風景

サンチャゴ島リンカン村の漁民の編網作業（地曳網作成中）

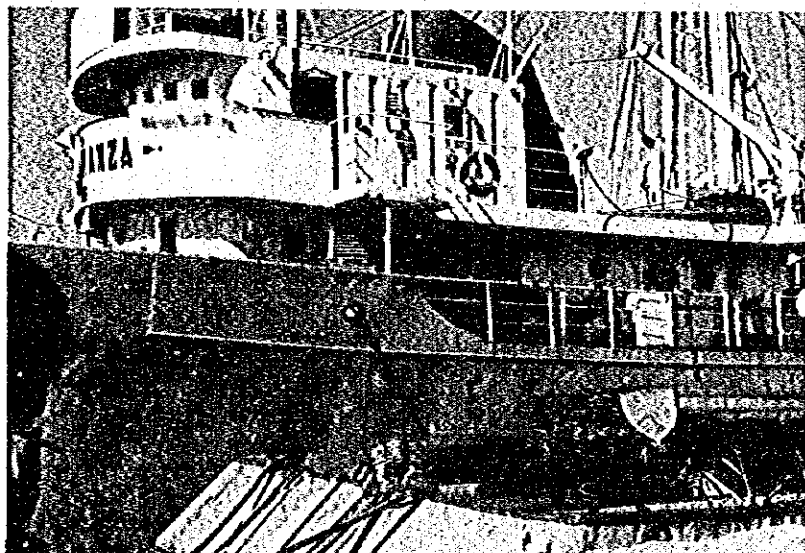


サンピセンテ島サンペドロ村海岸における“まさ網”修理作業

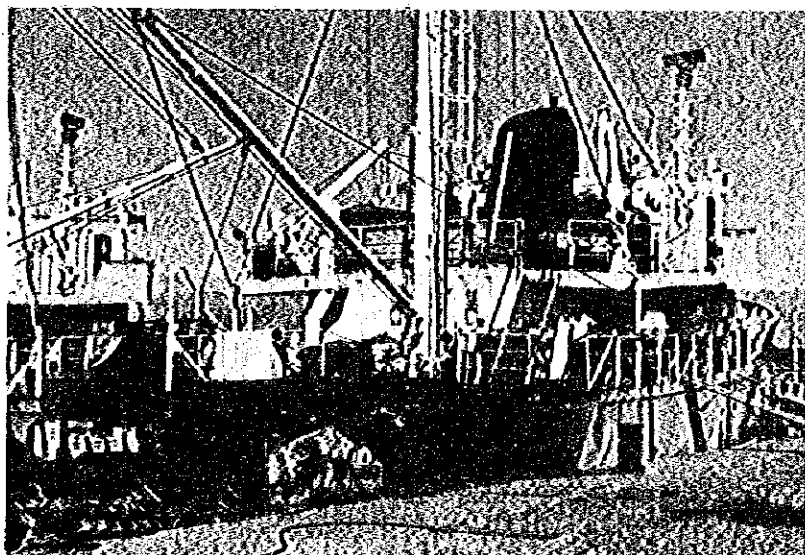


## 400t型まぐろ1本釣漁船

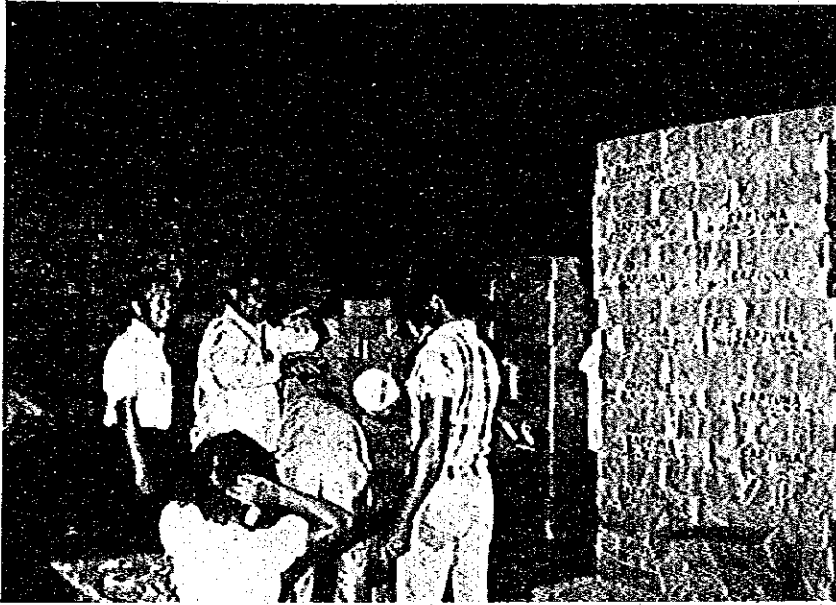
ミンデロ港の400トン型まぐろ1本釣漁船(FRICAP所属)  
船尾甲板に搭載された創獲用ボートとまき網  
餌舟と“SEIRO”



ミンデロ港内の400トン型まぐろ1本釣漁船



プライア、SCAP缶詰倉庫内部 (鮫缶詰)



ミンデロのポートグランデの水揚場  
天井から吊下げた“きわだ”まぐろ

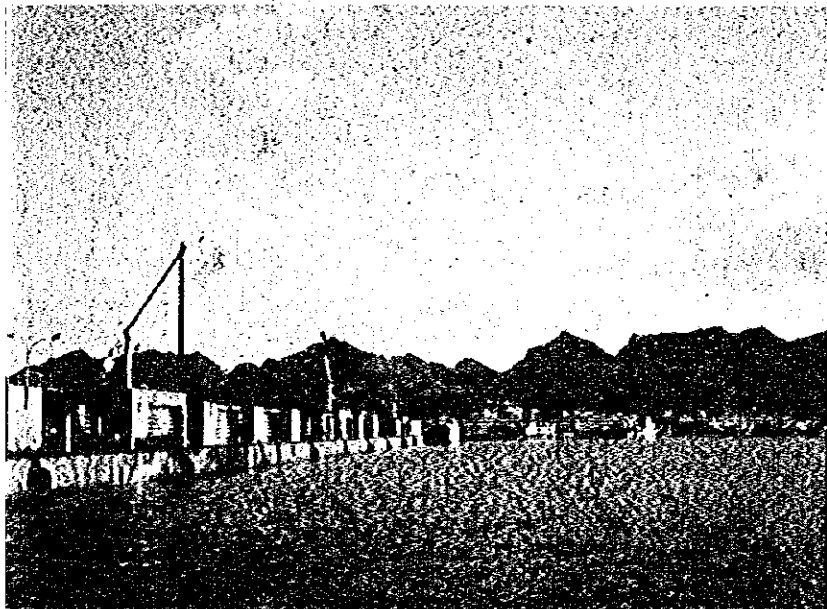
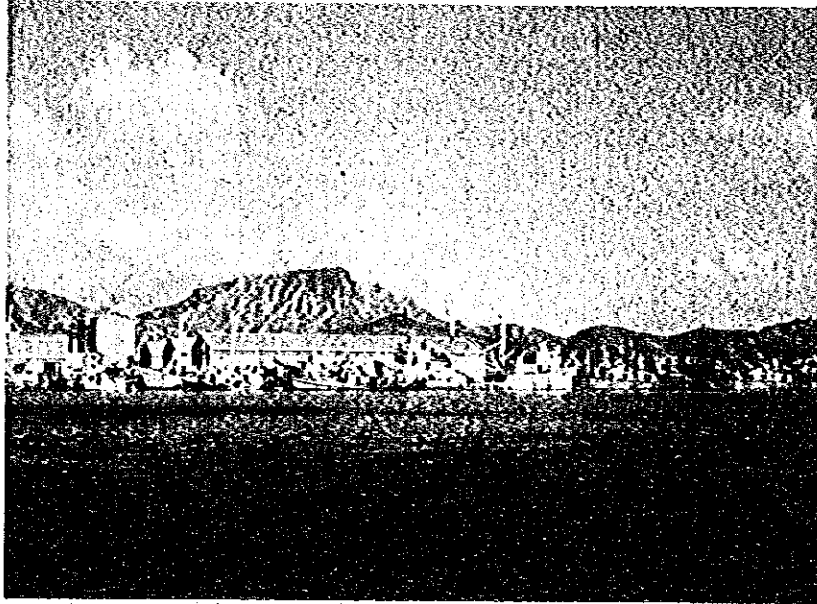


サンアントオ島  
タラフェル村海岸に天日乾燥中の  
“もろあじ” 塩干品



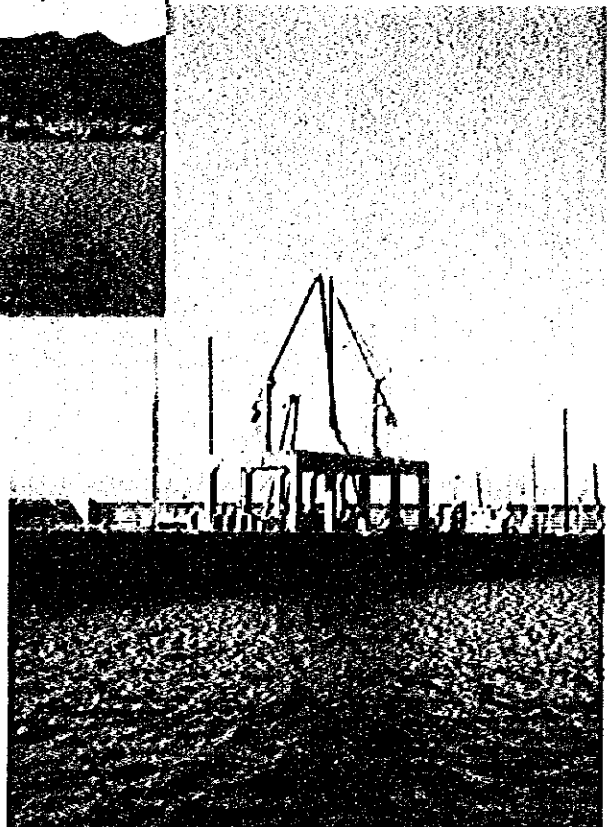
# SAN VICENTE島ミンデロ港風景

ミンデロ港岸壁に横付中の400トン型まぐろ1本釣漁船（元まき網船）

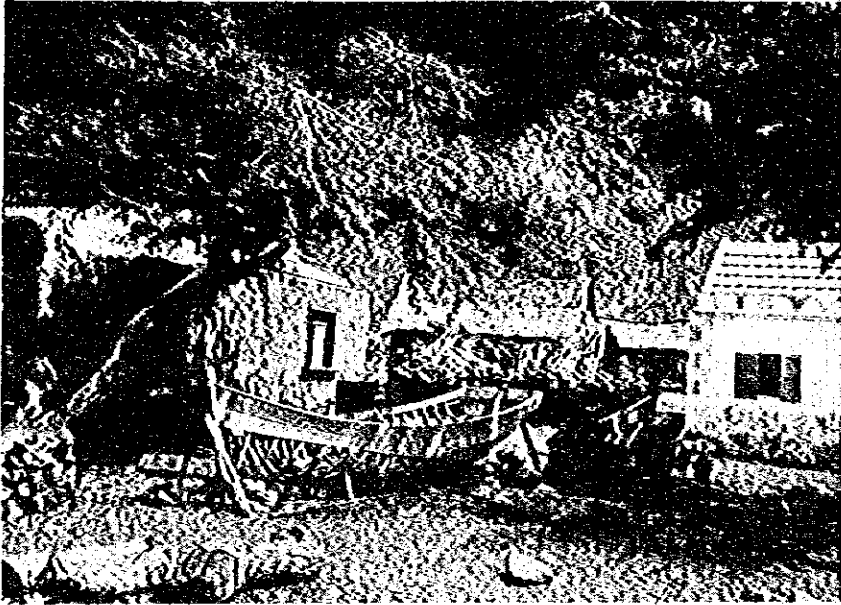


ミンデロ港岩壁の給油設備

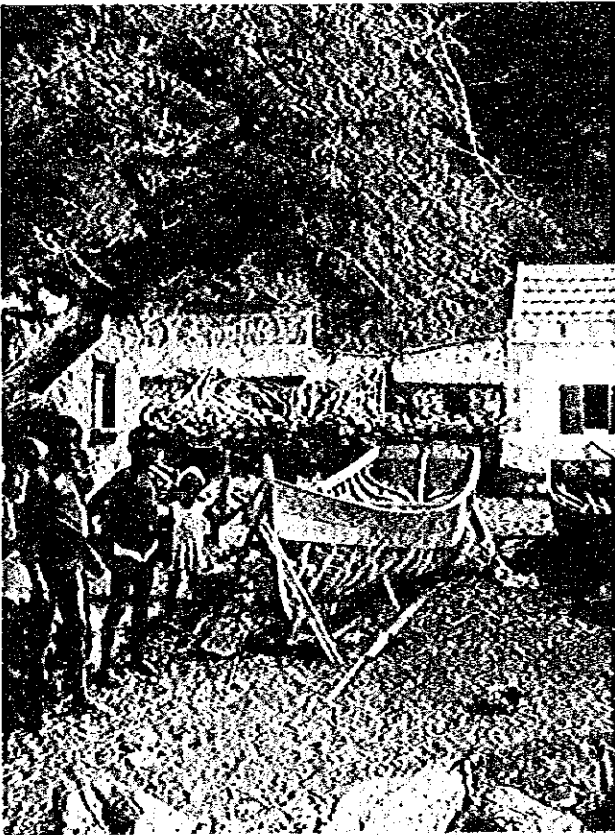
給油設備



# SAN TIAGO 島 RINCÃO 村の沿岸漁船建造風景



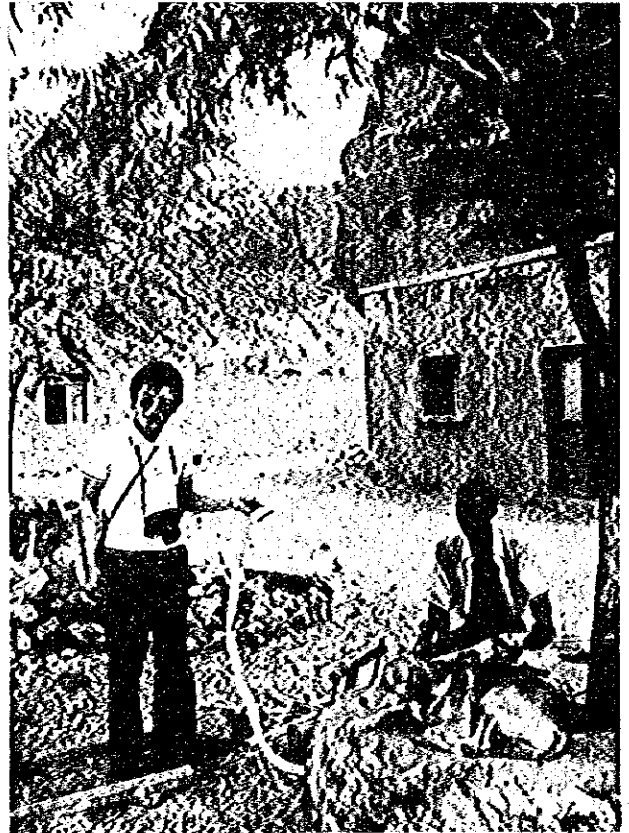
サンチャゴ島リンカン村の造船  
(沿岸漁船建造)の光景



沿岸漁船建造中

沿岸漁船用肋骨 (フレーム)  
川添団員と舟大工

漁船は1人の舟大工によって造られている。





# SCAPA 総 裁



SCAPA冷蔵庫のストッカーに冷蔵中のロブスター（ボイル）



SELOJA	PEIXE	
GAOPA ESMOUREL ANTA	SERGIO ESPARGO MERATO	
CHERVI EMPICADO BAEJA	BONITO SALMÃO BICA ROCHA	
GORAZ VENTRELLA	COREMA AGULHA	
PLUMBETA MOREIA PAMPO	OLHO LARGO CHICHARRO	
CORCOVAÇO FASSOLA BICAMARTIA	BARBO JARDO PAPAGAIO SEBUEO	
LINGUAÇO SALMONETE	PEIXE VOADOR PEIXE PRATA	5
ATUM SERRA LOBO CACHORRILTA	AGULHÃO DE COMA DOBRADA	
CAVALINHA CARAPAU	PONTEIRO	
FAMHAMA BUDIÃO TAINHA	ARENQUE	15

SCAPA魚類直売所の価格表

# SAN TIAGO島のSCAPA魚類直売所 (PRAIA)



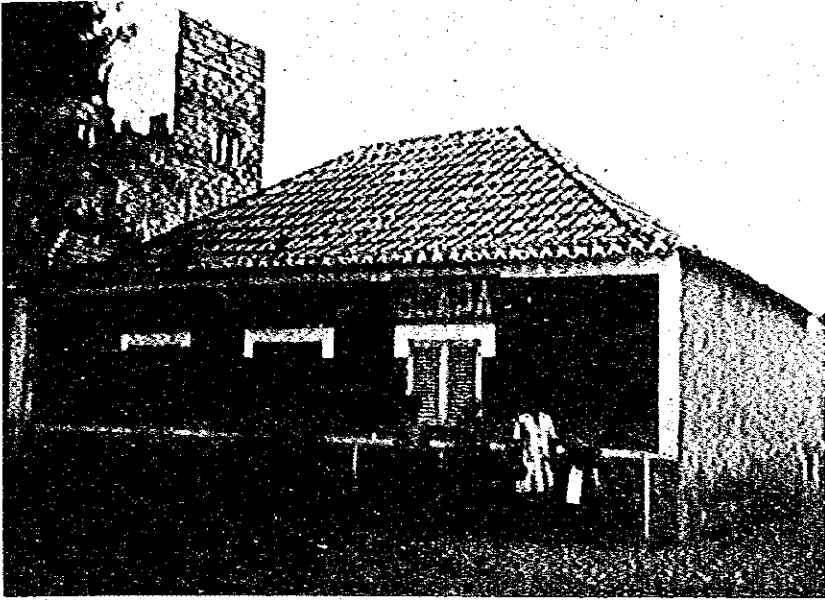
プライアのSCAPAの直売所

SCAPAの魚類の販売  
状況



まぐろの胴骨、之も売る、  
だしか？

# SCAPA魚類直売所

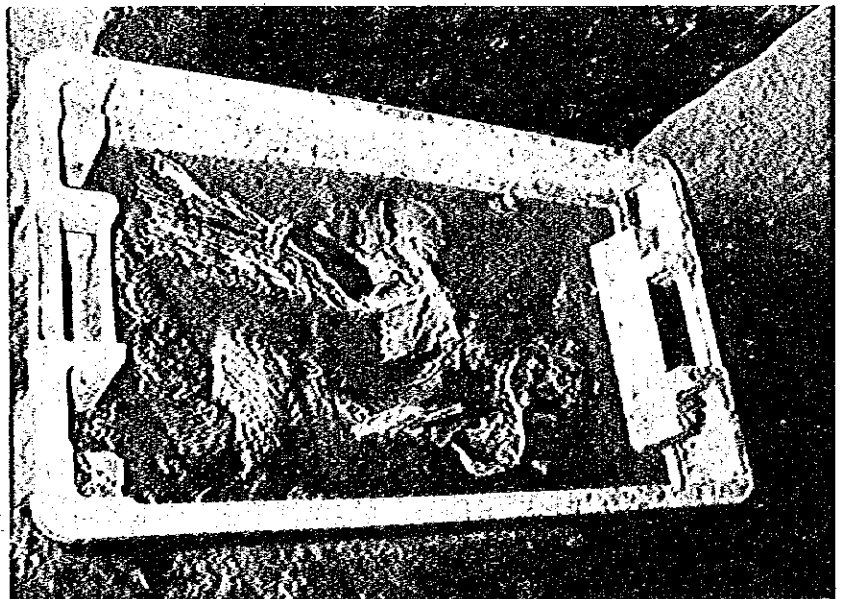


SCAPA魚類直売所  
(PRAIA)

SCAPA魚類直売所  
モロアジ  
ヒラアジ

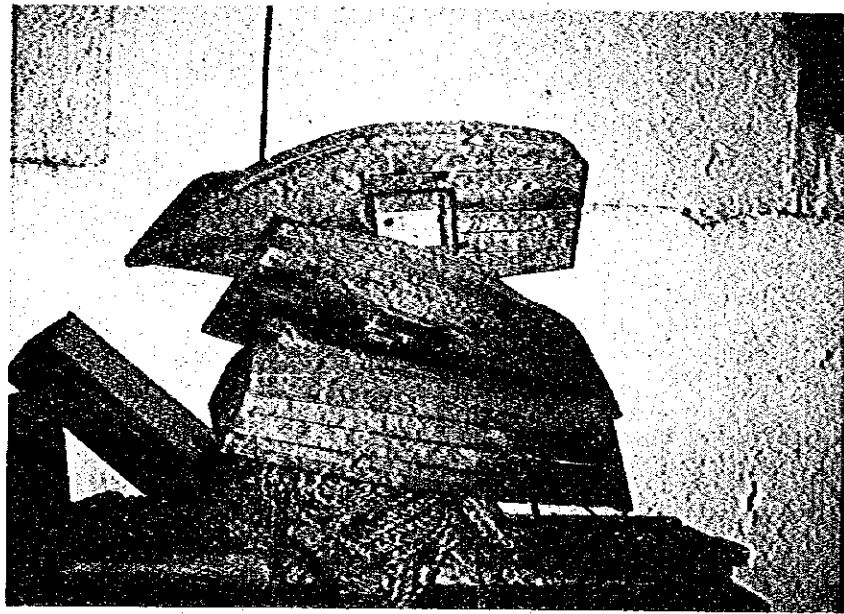


SCAPA直売所で売られている  
まぐろ脇漬(きわだまぐろ)

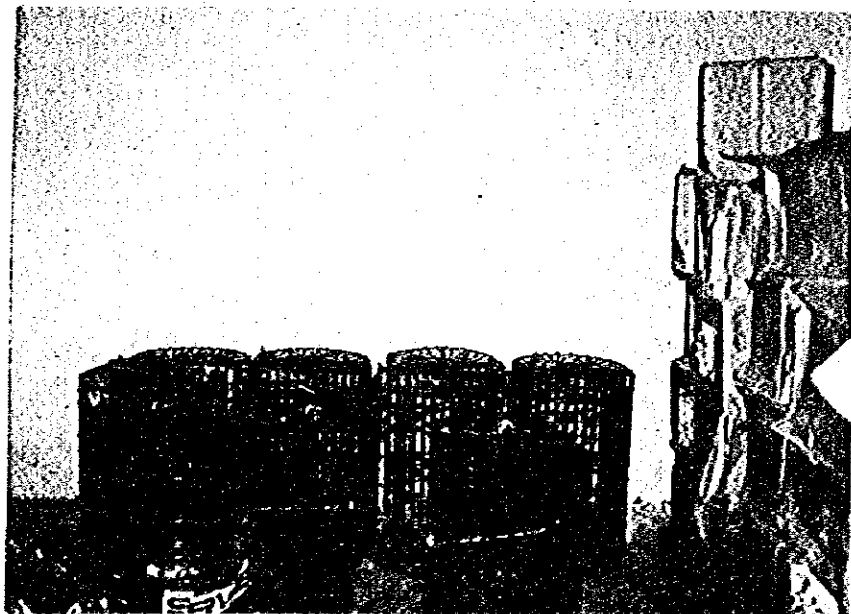
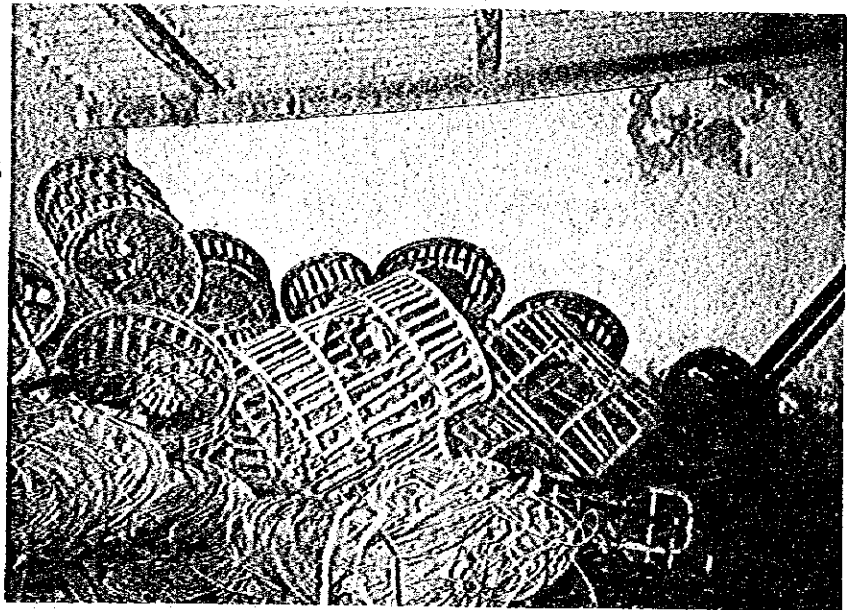


# SCAPA漁具倉庫（沿岸漁民供給用）

プライアのSCAPAの漁具倉庫内部（餌舟）

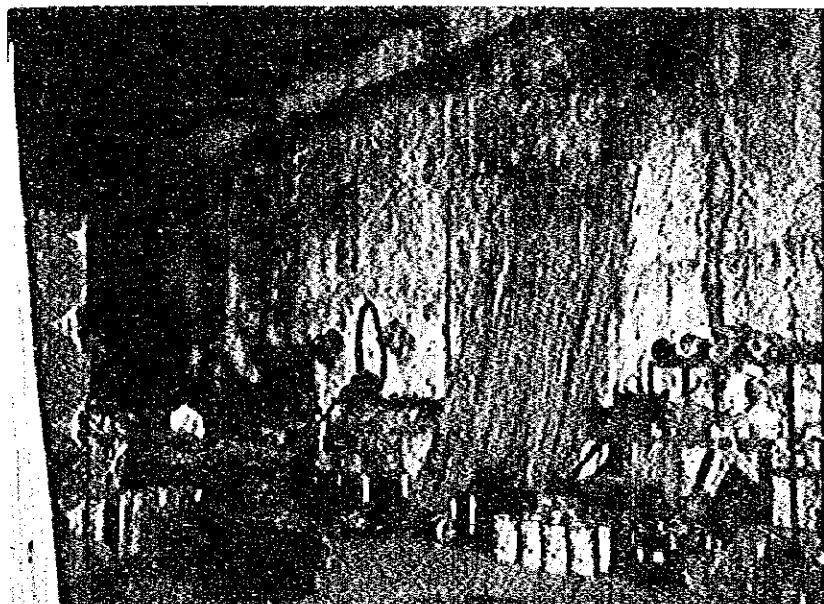


SCAPA漁具倉庫内部  
（伊勢えび用ポット）



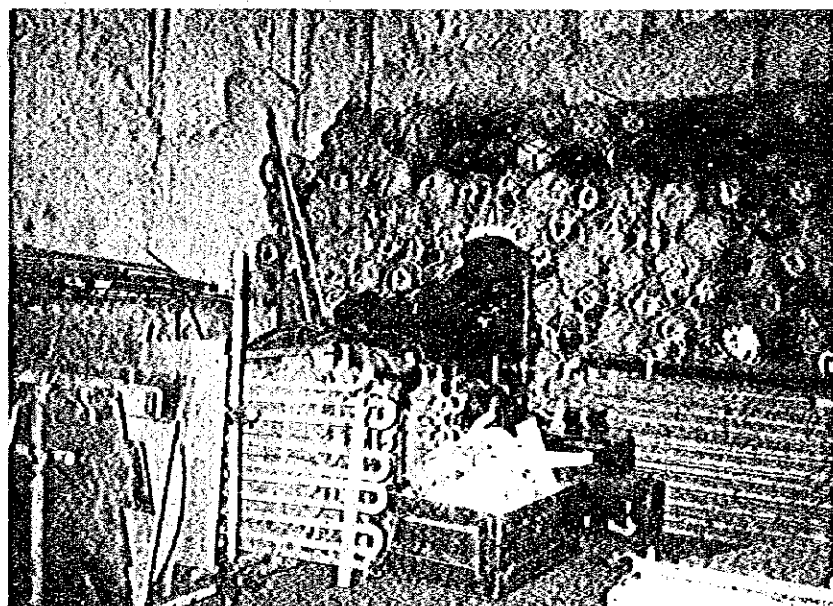
SCAPAの魚具倉庫内部  
（伊勢えび用ポット）

## SCAPAの漁具倉庫

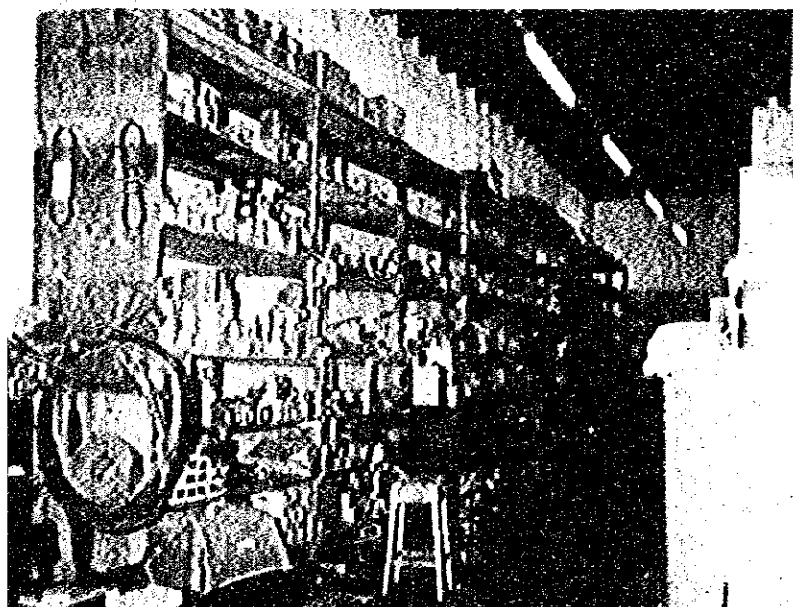


SCAPA漁具倉庫  
かつを竿釣用の竹竿  
まぐろ延縄（日本船のもの）  
（プライア）

SCAPAの漁具倉庫  
日本製ピン玉、延縄漁具



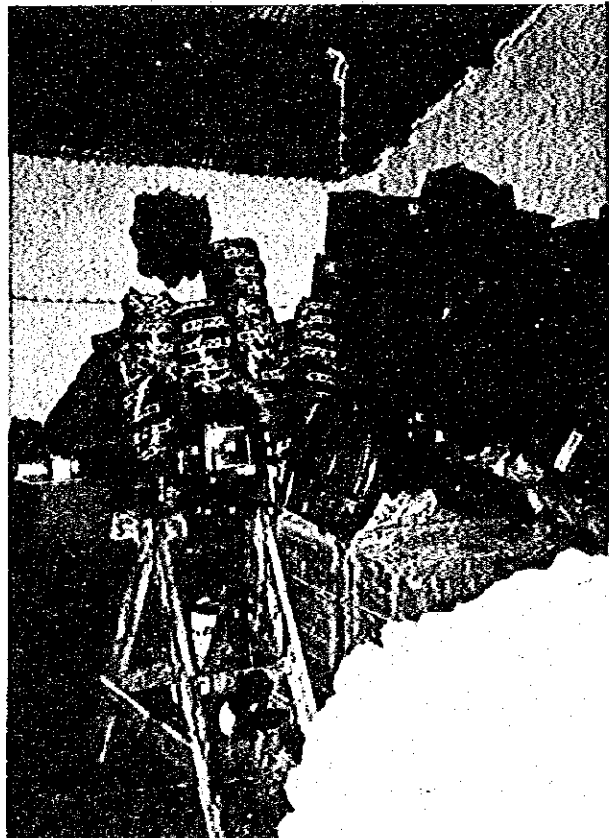
SCAPA予備品倉庫  
整理状況は極めて良い。





SCAPAの船外機倉庫内部

SCAPAの船外機倉庫内部  
アルキメデス、ヤマハ船外機



# 目 次

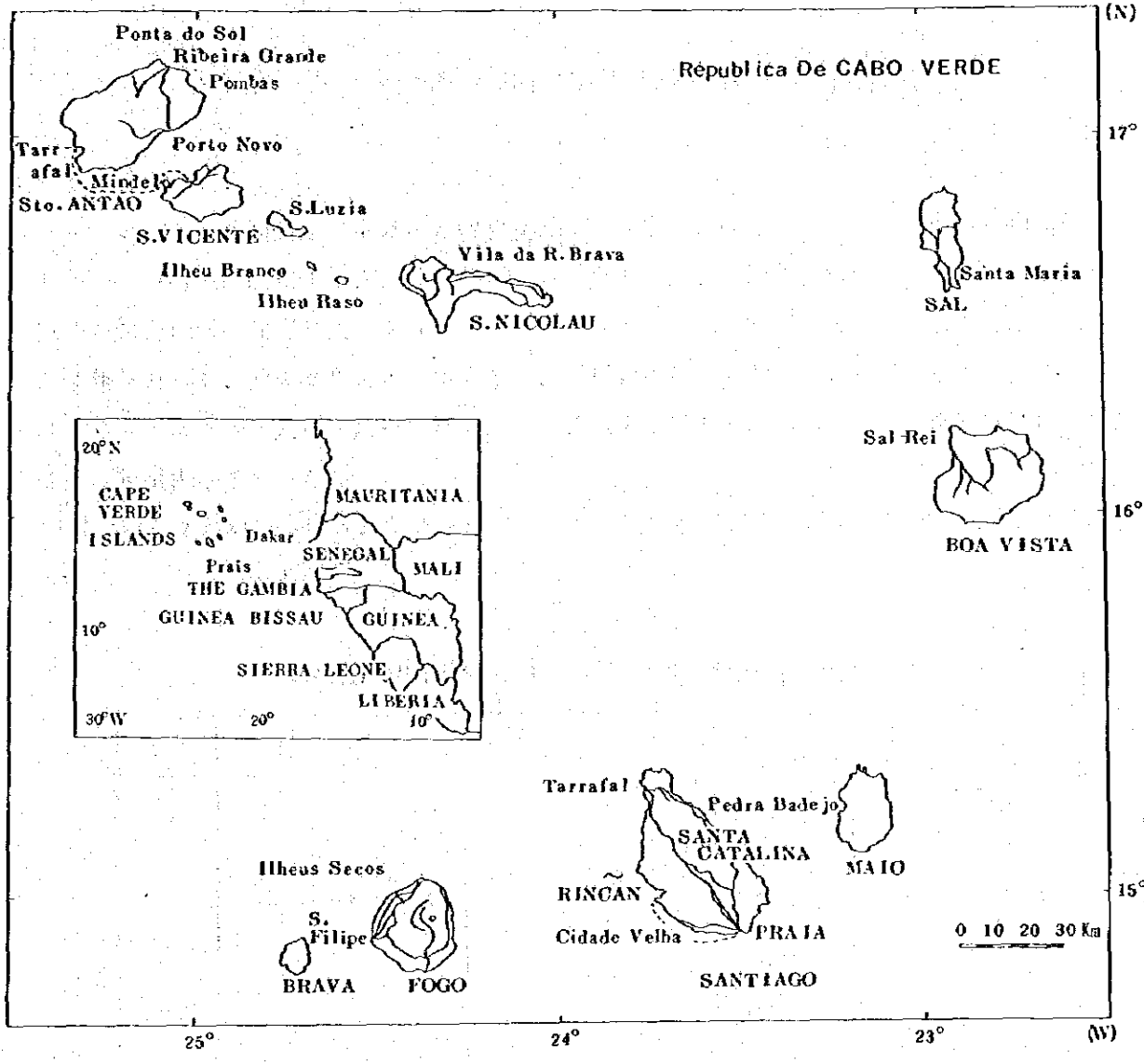
第1章 カーボベルデ共和国政府の要請内容及び調査団の派遣	1
1-1 要請内容	1
1-2 調査目的及び内容	2
1-3 調査団の編成及び担当分野	2
1-4 カーボベルデ側関係者	2
1-5 調査日程	2
1-6 協議内容	4
1-6-1 要請の背景	4
1-6-2 合意の内容	4
1-6-3 技術協力の要請	5
1-6-4 管理運営	5
第2章 歴史と沿革	6
2-1 カーボベルデ諸島の発見と移住	6
2-2 経済基盤の変化	7
2-3 旱魃、飢饉、人口	8
2-4 移住(民)	8
第3章 一般事情	11
3-1 国土、人口、気候	11
3-2 政治	13
3-3 政府	13
3-4 経済	15
3-4-1 輸出と輸入	18
3-4-2 支払いのバランス	20
3-5 社会、文化	22
3-6 教育	22
3-7 産業(漁業)	23
3-7-1 水産行政機構	23
3-7-2 漁業の実態	23
3-7-3 漁業の経済的役割	27
3-7-4 漁業開発の見通	28
3-7-5 水産物の需要	29

3-7-6	調 査	29
3-7-7	国際援助	29
第4章	カーボベルデ共和国の漁業発展計画	31
4-1	計画の内容	31
4-1-1	共和国水域の漁業資源量	31
4-1-2	漁業生産目標	32
4-1-3	1982年迄の投資計画	34
4-1-4	1990年迄の投資計画	42
4-2	計画の期待する効果	43
4-3	漁業発展計画と本無償援助の位置づけ	45
(1)	船外機	46
(2)	漁 船(13米、52馬力型)	46
(3)	船外機予備品、一般工具類、船外機用特殊工具、その他	47
(4)	漁 具	48
第5章	調査の詳細	50
5-1	基盤調査の内容	50
5-1-1	カーボベルデ共和国の経済事情の現状と将来の展望	50
5-1-2	カーボベルデ共和国の食糧事情の現状と将来の展望	50
(1)	食糧の国内生産と輸入数量の比較	50
(i)	生産情況	50
(ii)	食糧の輸入情況	51
(iii)	主要食糧の寄贈情況	52
(2)	動物蛋白質と海産魚類蛋白質の年間消費量の比較	52
(i)	カーボベルデにおける畜産の現状と動物蛋白質の国内消費量の比較	52
(ii)	1976年の総漁獲量と国内消費	53
5-1-3	カーボベルデ共和国の漁業の現状と将来の展望	53
(1)	鳥別、漁業種類別・生産数量、生産額(推定計算)消費域	53
(2)	漁業種類別漁業勢力(漁船数、漁民数)	54
(3)	漁船の規模別、船質別現況	55
(4)	動力漁船(無動力、船外機付、船内機付)	55
(5)	漁業種類別、漁業技術の現状	57
(i)	漁船の規模装備	57
(ii)	各種漁具の現状	58



(5) 各種漁法の現状	59
(6) 漁船機関、漁撈機械、計器漁具の生産レベルと修理レベル	63
(1) 生産レベル	63
(2) 修理レベル	63
(7) 各種漁法レベル	63
(1) まき網漁業	63
(2) まぐろ1本釣漁業及びかつを竿釣漁業	64
(3) 伊勢えび漁業	64
(4) 地曳網漁業	64
(8) 漁獲物の保蔵加工技術レベルの現状	65
(1) 塩漬、塩干加工技術の現状	65
(2) 冷凍冷蔵技術の現状	66
(3) 缶詰加工技術の技術レベル	66
(4) 魚粉加工技術	66
(9) 漁獲物輸送、流通の現状	66
(10) 漁港の現状	68
(11) 漁船建造修理の現状	70
(12) 燃料供給関係	71
(13) 冷凍冷蔵庫の現状	71
(14) 缶詰工場の現状	72
(15) カーボベルデの漁業の将来の展望の総括	73
5-2 無償供与資材の種類、性能、仕様、数量等適否の考察	73
5-2-1 プロジェクト推進のため必要と考えられる資機材の種類、仕様数量の適否の考察	73
(1) 漁船	74
(2) 漁船機関(船外機も含め)予備品工具類其他	74
(3) 漁具	75
(4) 無償供与資材の内容(案)	75
(5) 13米52馬力型漁船と16米120馬力型漁船の性能比較表	78
5-2-2 漁具に関する各種考察	80
(a) カーボベルデ諸島周辺海域の海洋条件から見た考察	80
(b) 棲息魚族資源から見た考察	81
(c) 既存漁業から見た考察	81

(d) 現地漁民の技術レベルから見た考察 .....	82
(e) 漁業経営上から見た考察 .....	82
5-2-3 無償援助資材の保管、活用据付修理レベル等対応環境から見た能力の考察 .....	82
(1) 保 管 .....	82
(i) 供与漁船の保留或いは引上地の適否 .....	82
(ii) 上記保管状態を考慮しての適否 .....	83
(iii) 船外機パーツ工具類の保管 .....	83
(iv) 各種漁具の保管 .....	83
(2) 活 用 .....	83
(i) 漁船の運航、航海計器探魚機器の操作に関する考察 .....	83
(ii) 機関運転技術 .....	83
(iii) 各種漁具取扱い操作技術 .....	83
(iv) 製網、漁具仕立修理技術 .....	83
(3) 据付けと修理 .....	84
(i) 機関類の据えつけ技術 .....	84
(ii) 機関と船との装備面での対応、適合性 .....	84
(iii) 機関類の修理技術 .....	84
5-2-4 無償援助資機材の漁業者への配分管理計画と其の適否 .....	84
5-3 無償援助資機材の日本国内での生産量から見た供与時期の考察 .....	85
5-3-1 無償援助資機材の供与時期に関する考察 .....	85
5-3-2 結論的考察 .....	85
第6章 無償援助資機材供与によるカーボベルデ共和国に与える効果 .....	86
6-1 カーボベルデ共和国経済への総合効果 .....	86
(1) 沿岸漁業資源の有効活用 .....	86
(2) 沿岸零細漁民の生活向上及び雇用就業率の増大 .....	86
(3) 国民全体に対する魚肉蛋白質の供給量の増加 .....	86
(4) 漁獲増大による流通構造の発達 .....	86
(5) 漁獲増大に伴う水産加工品の輸出の増加 .....	86
6-2 技術面への効果 .....	86
(1) 沿岸零細漁民の機動化による技術の向上及び周辺知識の習得 .....	86
(2) デーゼル漁船供与に伴う漁撈技術の向上 .....	86
(3) SCAPA の機構、組織の発展と周辺技術の向上 .....	87
(4) メンテナンスの知識、技術の向上による周辺産業の発達 .....	87





# カーボベルデ共和国漁業振興計画に対する基本設計調査報告

## 第1章 カーボベルデ共和国の要請内容及び調査団派遣

### 1-1 要請内容

カーボベルデ共和国はセネガルの西600軒の大西洋上北緯14°-30'と17°-20'、西経22°-40'と25°-30'の海域に散在する火山性隆起によって発生した群島国で、地理的条件と早魃のため、漁業の開発振興は政府の大きな課題となっている。カーボベルデの漁業の発展を妨げている原因は種々あるが、何よりも資本、生産手段、地理的条件、人材の不足していることである。このためカーボベルデ共和国政府は在ダカール日本大使館を通じ、わが国に対し漁船並びに船外機、漁具の無償供与を要請した。

昭和54年7月31日提出されたカーボベルデ共和国政府の日本に対する無償資金協力の要請内容は次のとおりである。

CABO VERDE 共和国要請の漁業用資機材リスト

項目	品名	仕様	数量
1	漁船	13米 52馬力	4隻
		16米 140馬力	2隻
2	船外機	5BS 5HP	150台
		5BL 5HP	150台
		8BS 8HP	150台
		8BL 8HP	150台
3	附属部品	一般工具類	150組
		船外機用特殊工具類 器具類 グリース、潤滑油 船外機部品	100組
4	漁具類	地曳網	20組
		伊勢えび刺網	10,000米
		まき網	15組
		トロール網	20組
		0.2~1.5m/mパーロン・テグス 漁業用コットンロープ	
		漁業用ポリロープ2.5m/m 網糸	

### 1-2 調査目的及び内容

カーボベルデ共和国政府の要請に対して日本政府は同国より無償GRANT AID 資金協力要請のあった漁船、船外機、漁業用資材の計画案につき、効果的な無償協力を行うための基本設計調査団を派遣することとした。調査内容を具体的に列記するとおおよそ次の通りである。

- (1) カーボベルデ共和国政府の協力要請内容と背景について充分調査し、これが零細漁民の援助と沿岸漁業発展の上で果たす役割及びその効果、見通しについて検討する。
- (2) 上記検討評価を容易にするため現地調査を行い実態の把握に努める。
- (3) カーボベルデ共和国政府要請の漁業用資機材の供与の妥当性及び可能性について協議し、漁船、船外機、工具類並びに漁具供与に当って最適な基本仕様を明らかにすることであった。

### 1-3 調査団の構成及び担当分野

担当分野	氏名	所 属
団 長 総 括	古 川 有 恒	農林水産省水産庁海洋漁業部国際課課長補佐
同 行	竹 内 重 弘	外務省中近東アフリカ局、アフリカ課
全画漁業全般	岩 崎 正 文	株式会社極洋
漁船機関機械	中 原 克 巳	株式会社極洋
業 務 調 整	川 添 浩 正	国際協力事業団無償協力調達部無償資金協力課

### 1-4 カーボベルデ共和国側関係者

所 属	氏 名
経済調整省、漁業局長	HUMBERTO BETTENCOURT SANTOS
経済調整省、漁業局次長	VICENTE ANDRADE
経済調整省、漁業局調整官	ELISIO SILVA
経済調整省、技術課長	MASCARENHAS ANTONIO
協力企画庁協力局長	ADÃO ROCHE
協力企画庁協力課長	JOSE LUIS MONTEIRO

### 1-5 調査日程

No.	月 日	曜日	時 間	行 動 内 容
1	11・24	土	11:00	新東京国際空港 (JAL 441) 発～モスクワ経由 18:20 シヤルドゴール空港着。
2	25	日	15:45	AF 305 便にてシヤルドゴール空港発 21:50 ダカール空 港着。

No	月	日	曜日	時 間	行 動 内 容
3	11	26	月	10 : 00	日本大使館表敬訪門業務打合。
4		27	火	10 : 00	FAO 訪問 カーボベルデ漁業関係資料調査収集。
5		28	水	10 : 00	日本大使館にて外務省竹内事務官と業務打合。
6		29	木	12 : 00 自 16 : 00	DS 411 にてダカール空港発 14:00 プライア空港着。 17:00 経済調整省漁業局訪門第 1 回会談。 漁業用資機材無償供与の性格、目的、要請機材の種類、数量調整に関する討議、漁業の実態、諸施設調査日程につき打合。
7		30	金	自 09 : 30 至 12 : 00  自 15 : 00 至 16 : 30  自 17 : 00 至 18 : 30	漁業局訪門第 2 回会談。 共和国政府の漁業用資機材要請の背景について聴取。 政府側から具体的資機材の品名数量について提示、討議。 漁業局訪門第 3 回会談。 漁業用資機材無償供与の内容について基本的に双方合意す。 SCAPA 訪門業務内容を聴取の後魚類直売所、漁具資材倉庫、在詰工場及び倉庫、冷蔵庫、造船施設等視察。
8	12	1	土	自 07 : 00 至 14 : 00	漁業局所属船 RINCAO 号 ( 25 トン ) にて RINCAO 村訪門、沿岸漁業の実態(まぐろ 1 本釣)塩漬塩干工場、漁船の建造情況、漁村の実態等視察。
9		2	日	自 07 : 30 至 15 : 00	SCAPA の案内で、内陸部バリアンテ自動車修理工場、サントドミンゴ村 SCAPA 魚類直売所、サンタカタリナ町の SCAPA 魚類直売所、メルカード、給油施設、農村の早魃の実態調査す。
10		3	月	07 : 10 自 15 : 00 至 18 : 00  自 19 : 30 至 22 : 00	プライア空港発 08:05 ミンデロ空港着。 ミンデロ近郊のバイヤダスガッタス村、サンベドロ村、漁村の実態、漁船、漁具、加工施設、漁具倉庫調査。 UNDP 渡辺専門官と会食、カーボベルデ共和国の漁業の現状、陸上設備、水産物の流通、輸出の現状、水産教育等について聴取。
11		4	火	自 07 : 30 至 16 : 30	漁業局所属船 CARRIGAL PREGUICA 号にてサンアントオ島トラフル村訪門、漁村、沿岸漁業の実態、漁船、漁具、塩漬塩干加工場(建設中)調査。 ミンデロ港湾設備(給油、岸壁)400 トン型まぐろ漁船等視察、ポートグランデの漁船水揚場、魚市場視察。
12		5	水	自 09 : 00 至 11 : 00 13 : 50	FABRICA DE FRICAP 冷凍冷蔵庫視察。 ミンデロ空港発 14:40 プロイア空港着。

No	月 日	曜日	時 間	行 動 内 容
12	12・5	水	自 16 : 00 至 17 : 30	漁業局訪問。
13	6	木	自 09 : 30 至 11 : 00 12 : 30 自 17 : 30 至 18 : 30	協力企画庁表敬訪問協力局長と会談。 ブライア空港発 14:10ダカール空港着。 日本大使館訪問。 カーボベルデ共和国への漁業用資機材供与に関する合意 内容並びに調査の概要について報告。

### 1-6 協議内容

昭和54年11月29日午後2時、古川団長以下4名のミッションはカーボベルデ共和国ブライア空港に到着、午後4時経済調整省漁業局を訪問、サントス漁業局長以下2名の幹部と同国沿岸零細漁民に対する漁船及び漁具の供給計画について第1回会談を開始、翌30日午前9時30分より正午に至る第2回会談、午後3時30分より4時30分に至る第3回会談、其の後サンビセンテ島、サンアントオ島における漁業の実態、漁村、漁船、冷凍冷蔵庫を調査、12月6日協力企画庁を訪問、ロツシエ協力局長との第4回会談を最後に同国出張の全日程を終了した。

#### 1-6-1 要請の背景

カーボベルデ共和国政府は1977年フランスの海外協力省の協力を得て同国の漁業の問題点に関する調査を実施、各問題点解決のための発展計画が立案された。

- (1) 現在約800隻ある沿岸零細漁業の漁船のモータリゼーションによって漁獲の増大をはかる必要がある。このため小型ディーゼル漁船、船外機、工具類、漁具が必要になった。
- (2) 漁獲物の鮮度保持のため、製氷、冷凍、冷蔵設備が必要になった。
- (3) 漁獲物の流通を円滑にするため人口の少ない島から多い島へ運搬し、又漁業用の資機材を各島に供給するため、運搬船が必要になった。これらは現在国民1人当り年間20Kgの魚肉蛋白質の供給量を35Kgにしたいためである。

#### 1-6-2 合意の内容

No	品 名 ・ 種 類 ・ 規 格		数 量
1	漁 船	13米5屯型52馬力 船価の10%の子備品	4 隻
2	船 外 機	5馬力脚長型	150 台
	船 外 機	8馬力脚長型	160 台



№	品名・種類・規格	数量
2	船外機予備品	価格の30%
3	工具類	船外機用一般工具 船外機用特殊工具 器具類
		150組 100組
4	グリース・潤滑油	船外機用
5	漁具類	地曳網 仕立上り (全長100米) 地曳網 仕立上り (全長150米) まき網 網系
		5組 5組 10組
	合計	

### 1-6-3 技術協力の要請

会談中、漁業局長より船外機の維持と管理及び冷凍冷蔵庫の建設、維持、管理のため、日本人技師2名の派遣が要請された。

2名の技師はミンデロとプライアに夫々駐在し、各島の技術者の教育も行うと云うことである。

### 1-6-4 管理、運営

#### (1) 漁船

漁船はSCAPAが管理する。そしてまき網でまぐろ1本釣の餌料として使用するあじ、さば、いわしを漁獲し、これを沿岸漁民に供給する。

#### (2) 船外機

船外機は各島の沿岸零細漁業者を集めてデモンステレーションを行い、希望者に2年間の支払い契約でSCAPAが販売、全責任はSCAPAがとる。

#### (3) 工具類、漁具

工具類と漁具は、ミンデロとプライアのSCAPAが管理する。ミンデロは北部の6島、プライアは南部の4島の配分管理を行うこととする。

修理部門にはUNDPのポルトガル人専門官が駐在している。

## 第2章 歴史と沿革

カーボベルデ共和国について、日本には殆んど資料がないので、カーボベルデ諸島の発見と移住、経済基盤の変化、旱魃と飢饉及び移民の歴史について説明する。

### 2-1 カーボベルデ諸島の発見と移住

カーボベルデ諸島は1450年の末にポルトガル人によって発見され1460年代に入って占拠が始まった。

当時ヨーロッパから西アフリカへの通商ポスト建設により奴隷はアフリカ大陸から探し求められ、カーボベルデ諸島は丁度西アフリカ沖合にあるという立地条件にあるために奴隷市場への入口として重要な役割を果たした。当初ポルトガルにとって島々を植民するためにはヨーロッパ人を補充することが困難であったため、アルフォンソ五世は発見者であるANTONIOとNOLIに島々の所有を認可した。この最初の2人の土地受領者にとっても植民地支配者監督官として白人を補給することは容易ではなかったため彼等はポルトガル人、ジェノバ人、フランドル人冒険家、犯罪人、宗教上の迫害から逃れようとするスペイン人、ポルトガル人、ユダヤ人を寄せ集めた。カーボベルデ諸島の中で最初に植民されたのはサンチャゴ島で、フォゴ、サンニコラウ、サンアントオが続いて占有された。しかし、サンピセンテの占有は1700年代であった。

サンゴチャゴの初期の住民はポルトガル南部から来た人々で最初の首都はサンチャゴ島南部のリベイラグランデに置かれた。

カーボベルデ諸島への初期の移住者は最初砂糖キビの栽培を試みたがうまくゆかず、URZELA（染料をとる地衣類）ひまの実それに山羊が僅かに一時的に生産され、これらが移住初期のカーボベルデ人経済の基盤となった。

島の真の価値は、その位置がアフリカ沿岸から離れているので大陸の原住民による攻撃を免れることができ、奴隷略奪遠征で捕えた奴隷の貯蔵場所として大陸内の地点より安全である事にあった。また各大陸からの船が奴隷買い入れにやってくるのが可能であったため、程なく奴隷売買が経済のバックボーンとなった。多くのポルトガル人はこの利益のあがる商売をするため、アフリカのどこの国にも出かけアフリカで彼らは同盟をつくり、地方交易で特権的立場を手に入れた。彼等はアフリカの女性と結婚をして、その子供達は地方交易を支配し引続きヨーロッパ権力とアフリカ住民の間の仲介者として行動するに至った。

島に移住したポルトガル人は奴隷をギニヤコースト、セネガルベニン、モザンビークから輸入した。そして異民族混合過程が急速にはじまり、これが非常に完全だったので今日では多くのカーボベルデ人の人種的起源を決定することは難しい。血清学調査研究から住民の遺伝学

的な構成はヨーロッパ人 35 %、西アフリカ人 65 %である。

## 2-2 経済基盤の変化

初期のカーボベルデ諸島発展の軸になったフオゴ島、サンチャゴ島において、ポルトガル人は何年かの間ヨーロッパ植物の栽培を試みたが気候が乾燥しすぎたため、それに代るものとして新世界熱帯地方、アジア、アフリカから作物を持ち込んだ。1515年ブラジルからトウモロコシが入ってきてすぐ主要産物となり、カッサバ、豆類、カボチャ等の他の新世界の作物も入ってきた。旧、新世界の間のこのような作物の動きにおいてカーボベルデは2つの大陸の間の試験農場といわれるような重要な役割を果たした。

砂糖きびはマデイラで栽培に成功していたのでとり入れられた。綿は導入されてすぐにフオゴ島の重要産物となった。

また、lichen urzela からは、ヨーロッパで大きな需要があった青と紫の塗料が出来たため1700年代後期から1830年代にかけてこれら塗料採集は奴隷の売買より大きな利益をあげた。

15世紀から19世紀まで、フオゴ、サンチャゴ、サンニコラウ、サンアントオ島ではワインの生産が比較的重要であった。これらの島々では山々の風上の傾斜地の気候が地中海の気候に似ていたためワインの生産が始まり、ワインはアフリカ、ブラジルに輸出された。19世紀の初めこれらの島では王様によって食糧の生産が必要であるとの理由をつけられ、島から、特にサンアントオ島からは、ブドウの木が根絶やしにされた。事実、島で造られたワインは海外で評判が良く、ポルトガルワインの競争相手となっていた。サンチャゴ、フオゴの農園経済は綿の栽培をベースにしていた。最初原綿が西アフリカに輸出されたが後になって織物が織られ、これは西アフリカ産をしのいだ。

織物技術は西アフリカから奴隷によって伝えられ、織物機はあしの小さな棒切れをバナナ繊維から造った組で結び合わせた原始的なものであった。これらの布地は綿だけのものが殆んどで、絹や亜麻の繊維との混紡はたまにしかなかった。この布地は特に奴隷売買において通貨として使用され19世紀の終りまでその役割を保ち続けた。

奴隷労働システムの一部で布地がつくられたが農業だけしか出来ないものは綿の栽培の仕事をした。スペシャリストは西アフリカからの伝統的パターンに従って織り物を織った。インデイゴはカーボベルデに16世紀に導入され、18世紀の末まで伝統的方法によって調整された。以後合成染料に追い出されるまでに使用され続けた。

皮革作りは植民地の初期の段階において主要産業であったが19世紀までには地方の需要にも追いつかなくなった。この皮革は立派なもので高い需要があったと記録されている。

山羊は島で育ち、はじめの頃は島のいたるところに多数いたことが報告されている。これは船で連れてこられたものであり、帆船時代には孤島に座礁した時に備えて山羊を船に乗せてい

た。

カーボベルデの産業は手工業の域を出ず、砂糖きびの処理はいつも比較的小規模で行われた。綿を織ることは家事であり、urzelaやindigoから染料をつくるのも家族労働であった。砂糖きびは、砂糖をつくる程多くは処理されずアルコール飲料を造るために使われた。数人の奴隷と牛によってしぼり出された液汁は集められ、煮熟されStone sugarと呼ばれるものになる。これを醗酵、蒸溜し生ラムを得た。

1878から1888年の短い期間ひまの実の生産を主要ベースとして農業が安定した時期があり、これが輸出市場の74%を占めていたが今世紀はporegnuts、バナナ、魚、塩が主要輸出品となった。

カーボベルデの主経済活動は、特にサンビセンテ島のミンデロ港であった。1839年英国の東印度会社がミンドロに石炭積み込みステーションを造った、この事がこの島への移住そして群島の発展へとつながっていった。

南大西洋を航海しアフリカ、アジアへ行き来する船は、石炭補給のためミンデロに立ち寄った。1890年は156隻の船がウェールズからの石炭657,633 M/Tをおろした。港へは2,264隻の船が344,907人を運んでやってきた。主要補給品目は石炭、塩、山羊の肉、それに水とワインの混合品—これは長い旅の間水の保存を助けた。ワインはミンデロに立寄る船に売るためマデイラ、アソレス、ポルトガルからカーボベルデに輸入された。この繁栄は長くは続かなかった。スエズ運河が南太平洋からの新らしいルートとなり、又進歩した。そしてダカール、カナリー群島へと航路が変わってしまったのである。

### 2-3 早魃、飢饉、人口

早魃と飢饉は島の占拠以来常に問題となってきた。初期から人々は早魃と飢饉に苦しめられ、動物も早魃との間の相互関係を示している。動物も早魃の間には間引きされ、うさぎは絶滅寸前となり、山羊の数も大巾の増減を経験している。

飢饉は過去において人口を減らす大きな役割を果し、1773～75年の早魃の飢饉では人口の多いサンチャゴ島では3分の1の人が、群島全体では44%の人が死んだ。人口安定的増加は飢饉で叩かれた。飢饉の度に20世紀まで人口の10%以上が定期的に死亡した。その後飢饉による死亡は低下した。これによって人口が増加し、少ない資源を圧迫している。

### 2-4 移 住

早魃、飢饉のサイクルに対しての主要な反応は移民であった。早魃によって生活用作物の大部分を生産する雨水供給土地が不足し、山地は生産力がなくなり家畜は死に、山羊は残っている植物の葉をむしとる。これが進行するにつれて、土地は沢山の人を養っていくことが出来

なくなり結局飢饉となる。1950年までさえ、死亡率は15%が予測された。島から出ていった多くの移民及び高いレベルの援助が若し無かったら、今世紀でさえ過去と同じように死者は多く出たであろうと思われる。1760年代に島から初めての移民がアメリカを目指した。この人口の流出は南大西洋の捕鯨船によって開始された。捕鯨船はその地域の風や汐流の知識を求めて捕鯨海域周辺から乗組員を雇い入れた。次の一世紀半カーボベルデ人はこれらの海洋活動に参加し優秀な船乗りとの評判を得た。そしてアメリカ、特にマサチューセッツ、ニューベッドフォード周辺に移住しはじめた。1820年代までにアメリカ人となり自分自身の捕鯨船や漁船を所有するようになったカーボベルデ人もあった。この後カーボベルデからアメリカへの移民の流出は急速な割合で増加した。1890年～1903年の長い乾燥期に、そして特に1902～1903年の大旱魃、飢饉によって移民の流出は速くなった。ある者はアメリカへ行き、またサントメの農場で働くようになった者もある。

1920～1940年の間アメリカを含む多くの国々にカーボベルデからの移民を妨げるものができた。1946年以降現在まで移民はヨーロッパ向けが多くなった。特にオランダ、ポルトガル、ルクセンブルグ、イタリア、スイスそれに南アフリカ、西アフリカである。

1920～1940年に起った減少は、世界的不況と移民に加えられた制限とに一致している。これはまたカーボベルデでも難かしい時期であった。移民の流出バルブは役をなさなかった。

移住民の目的地

国 別	1900～1920		1927～1945		1946～1952	
	人 数	%	人 数	%	人 数	%
ア メ リ カ	18,629	67.2	1,408	13.9	538	7.9
南 ア メ リ カ	1,968	7.1	1,203	11.9	86	1.3
ギ ニ ア	2,247	8.1	1,197	11.8	901	13.2
アンゴラ・モザンビーク	366	1.3	352	3.5	6	0.2
サントメ・プリンシペ	1,532	5.5	133	1.3	2	0.1
セネガル・ガンビア	1,428	5.1	1,772	17.5	251	3.7
ポ ル ト ガ ル	1,232	4.4	3,336	33.0	3,933	57.8
そ の 他	363	1.3	719	7.1	1,087	15.8
計	27,765	100	10,120	100	6,804	100

移住民の人口比率

PERIOD	TOTAL OF THE DECADE	MEAN ANUAL	PERCENT OF TOTAL POPULATION
1900 ~ 1909 年	16,130	1,614	1.4%
1910 ~ 1919	26,630	2,663	1.8
1920 ~ 1929	11,322	1,132	0.7
1930 ~ 1939	5,244	524	0.3
1940 ~ 1949	25,411	2,541	1.6
1950 ~ 1959	45,607	4,561	3.1
1960 ~ 1969	69,221	6,922	3.4
1970 ~ 1973	62,227	15,694	5.7

### 第3章 カーボベルデ共和国の一般事情

#### 3-1 国土、人口並びに気候

カーボベルデ共和国はセネガルのダカール沖合西方 600 Km の北緯 14°-30' と 17°-30' の緯度線、西経 22°-30' と 25°-30' の経度線に囲まれた大西洋に散在する群島国で人の住む 10 の島と 4 つの小島から出来ている。

国土の面積は 4,033 Km<sup>2</sup>、海岸線は約 2,000 Km に及ぶ。

気候はサハラ型で 8~10 月の雨期を除いては、アフリカ大陸からの熱い乾燥したハーマタンと呼ぶ季節的砂嵐が吹き、乾燥し気温が上昇する。降雨量は、年々非常に大きな変化があるだけでなく、早魃が数年連続する傾向がある。最近の 25 年間では、通常かそれ以上だったのは 6 年だけである。しかもカーボベルデにおける降雨は、8~10 月に集中し、それが数回の暴風雨で大部分降ってしまう傾向にあることで、年間の降雨量の半分が 1 回の暴風雨で降ってしまうことも珍らしくない。

(PRAIA に於ける 20 年間の雨量の記録)

1960年	926.5%	1965年	-%	1970年	23.1%	1975年	418.6%
61	159.6	66	243.3	71	69.6	76	125.7
62	319.2	67	440.4	72	13.2	77	21.3
63	160.7	68	103.9	73	41.2	78	87.6
64	182.7	69	207.2	74	12.4	1979/11月	240.0

気温は穏かで 30°C を超えたり 13°C 以下に下がることはめったにない。平均最高温度は 24.6°C、平均最低温度は 16°C である。最も低いのは 2 月で、最も高いのは 8 月である。月平均気温の年間範囲は 6°C である。

1978 年の月別気温 (AM 10h 観測) (プライア空港の観測記録)

1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
23.2°C	23.4	23.8	23.4	24.5	25.0	25.4	26.8	27.3	28.0	27.0	24.4

風は殆んどコンスタントに北と北東からの強い風が吹いている。下表は 1961 年~70 年のプライアで 1 日 3 回観測した風向の分布を示しているが、北と北東風が 78%、Calm が 7% であった。ハーマタン期間中の 12 月~2 月はアフリカ大陸から風が吹き、暑く乾燥し、しばしば大陸

の砂漠の砂で“もや”となる。

風向の観測値 1961～70年（プライア空港の記録）

Direction	Number of Observations	%
N	4,672	43%
NE	3,833	35
E	672	6
SE	243	2
S	384	4
SW	158	1
W	0	0
NW	180	2
Calm	760	7

1978年の月別、気温、雨量、湿度、風向、風速  
（プライア空港観測所記録）

月別	気温 C	雨量 %	湿度 %	風向・風速 m/sec
			10 AM	
1	23.2	0.2	62.2	NE 8.3, E 6.3
2	23.4	0	56.1	NE 6.9, E 7.7
3	23.8	0	53.3	NE 8.9, E 8.3
4	23.4	0	56.2	NE 8.28, S 4.4
5	24.5	0	57.5	NE 9.1, S 5.0
6	25.0	0	59.6	NE 7.4, E 5.7, S 3.6
7	25.4	0	67.1	NE 5.4, E 3.4, S 2.7, SW 2.8, W 4.2
8	26.8	0.7	68.7	NE 5.3, E 4.8, S 3.2
9	27.3	76.5	70.7	N 2.4, NE 5.1, E 3.7, SE 3.7, SW 4.7, W 3.1, NW 3.6
10	28.0	5.2	68.2	NE 7.2, E 4.2, SE 13.6, NW 4.7
11	27.0	0	63.8	N 3.1, NE 7.5, E 5.9
12	24.4	5.0	63.1	N 2.8, NE 7.8, E 5.8

1978年の人口は313,000人で、アフリカ人とポルトガル人の混血が70%を占める。血清学上からみた住民の遺伝学的構成は、ヨーロッパ人35%、西アフリカ人65%といわれる。